

大津けいはん タイムス

「大津けいはんタイムス」を手にとって戴きありがとうございます。
本紙は大津市内を走る京阪電車沿線の人々との交流と、まちの活性化を目指し「大津の京阪電車を愛する会」の会員自らが作った情報紙です。

★「大津の京阪電車を愛する会」は、貴重な公共機関としての京阪電車大津線（京津線・石山坂本線）の利用促進を図ることなどを目的に設立された市民団体です。

①大將軍神社のスタジイ

大將軍神社の鳥居のすぐ横に、根が大きく地表に盛り上がっている大木がある。これがスタジイ（すだ椎）だ。穴太衆積みの石垣に密着し、1.5mほど根を地表に出しながらも大きく青々と枝葉を茂らせ、どっしりと生きている。大迫力だ。神社は日吉大社境内108社の中の一つ。隣は伝教大師最澄生誕の地とされる生源寺である。神社の前は日吉大社参道となっており、坂本の歴史を静かに見守ってきたスタジイである。

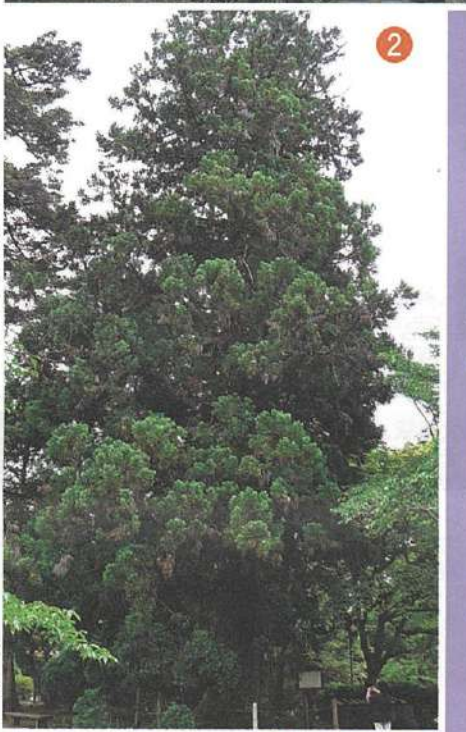
*坂本駅すぐ
*樹齢 推定300年以上



②三井寺の天狗杉

椋皮膏（ひわだぶき）の屋根が重厚な金堂の真向かいにどっしりと根をはる高い老杉がある。これが天狗杉だ。老杉にはしめ縄がまきつけられ霊木として守られている。室町時代の初め、相模坊道了という僧侶が境内の勸学院で修行していた。一夜の内に天狗となってこの杉の頂に止まり、翌朝小田原（神奈川県）まで飛び去り、降りたところが太雄山最乗寺であったと伝えられている。落雷による災難を受けながらも、生き抜いてきた生命力に圧倒される。

*三井寺駅 山手に徒歩10分
*樹齢 推定1000年



③犬塚のケヤキ

大津赤十字病院の近くに犬塚のケヤキがある。真宗中興の祖・蓮如上人が迫害を逃れて大津滞在のときのこと。誰かが毒殺を企てたが、蓮如がかわいがっていた犬が察知し、身代わりになって死んだ。その忠犬を弔い、塚を築き植えられたのがこのケヤキであるという。高さ2mの石垣で組まれた塚の上のケヤキは、苔むした樹こぶに根がうねるように盛り上がっている。樹高は折れたり近隣の火事にあったりして、現在は10m位しかない。

*上栄町駅すぐ
*樹齢 推定500余年



④本長寺のカヤ ⑤同キリシマツツジ

犬塚のケヤキの道路向い、永禄5年（1562年）創建の本長寺にはカヤ（榎）の大樹がある。幹は先端のとがった葉がひげのように密生し、さながら緑の塊。「碁盤、将棋盤にも使われるカヤが、山中でなくこんな市街地にあるのはここだけではないか」と住職の清水良随さんは語る。

境内からは京阪電車の通り過ぎる様が垣間見え、庭には初夏になると朱赤に染まるキリシマツツジも連なる。昭和14年の大津市観光課の資料によると「樹齢約200年、樹高7米」と記されている。背後に見えるのは犬塚のケヤキ。

*上栄町駅すぐ
*カヤの樹齢 推定350年
*キリシマツツジの樹齢 推定270年

沿線の巨木

悠久の時を経て育まれた生命力、世代をつなぎ地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなった巨木。電車と共に沿線の風景を形づくるそんな木々を訪ねた。

⑧石山寺駅の山桜

石山寺駅山側の医王寺には見事な山桜の巨木がある。江戸末期、ここの庭にある膳所藩ゆかりの五輪塔のそばに植えられたらしい。

寺には荒痛薬師様が祀られている。江戸時代から若い母親達が、母乳がよく出て子供が健やかに育つよう願いを込め、絵馬を奉納し信仰してきた。その願いを受けとめ力強く育った山桜。花が咲く春には駅から山側を見上げると、包み込まれるような雄大な姿に出会うことができる。（写真は中島隆さん提供）

*石山寺駅 すぐ

*樹齢 不明



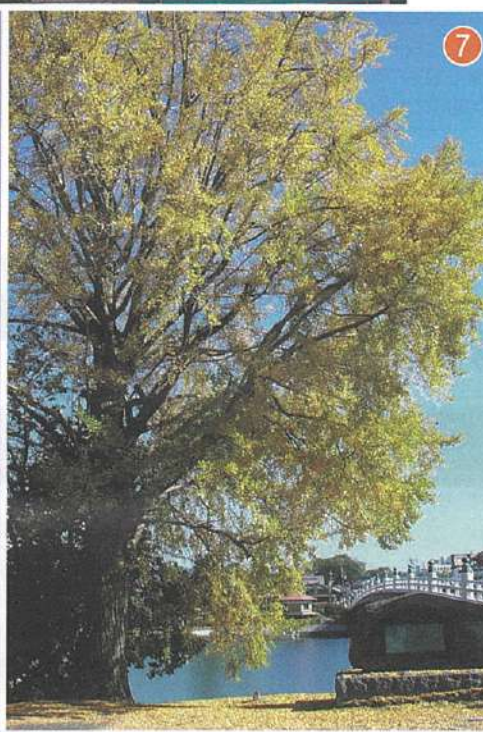
⑦

⑦唐橋のイチョウ

唐橋の中ほど、ギャラリーの前で存在感を示す一本の銀杏がある。誇らしげな秋の黄金色の姿はヨーロッパの広場の風情を漂わせる。

近くに住む若山義和さんの話では、「季節が規則通りに移ろった年には、ある秋の朝、潔く全ての葉を落とす」という。今年はどうだろうか…。美しい落ち葉の黄色のじゅうたんの上を早朝に歩くのは、きっと気持ちがいい。

*唐橋前駅 徒歩2分
*樹齢 不明



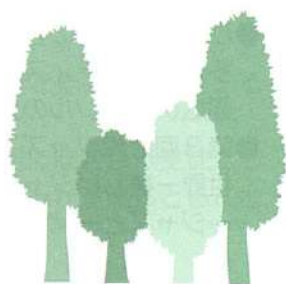
⑥

⑥和田神社のイチョウ

和田神社の拝殿のすぐ横にまっすぐに空に向かってスッと立つ大銀杏がある。見上げるほどの大銀杏は今でも樹勢衰えず伸び続けているという。かつては湖上を行く船の目印とされていたというもうなずける。

1600年関ヶ原の合戦の後、敗軍の将となった石田三成が伊吹山で捕縛され京都に護送される途中、小休止した時繋がれたのがこの樹と伝えられている。歴史に思いを馳せることができる大銀杏である。

*膳所本町駅 徒歩10分
*樹齢 推定600～650年



京阪石山坂本線三井寺駅に降りると、駅前を琵琶湖疏水が長等山に向かって流れ、山の中腹に木々に囲まれた三井寺観音堂の伽藍も見える。

疏水沿いに進むと約10分で三井寺に着く。三井寺は正式には園城寺（おんじょうじ）といい、天智・天武・持統天皇の三帝の御産湯に用いられた井戸があったことから「三井寺」の通称が馴染まれてきた。「三井の晩鐘」や「弁慶の引摺り鐘」で有名な境内には国宝の金堂はじめ山門、三重塔など端正なたたずまいの建物が心を落ち着かせる。毎年5月中旬、子供の無事を祈願する「千団子祭り」は、「昭和40年代までは大変な賑わいで、三井寺境内、大門通りから疏水沿いまで露店が並び、大勢の人出があった」と、大門町で食料品店を営む3代目伊庭善治さん（73）が教えてくれた。「かつてはこの通りには饅頭屋さんや靴屋さんもあった」とも。明治になり最初の滋賀県庁舎が三井寺に隣接した円満院に設置され、また明治8年には歩兵第9連隊や練兵場も置かれ、別所一帯はまさに軍都の様相を呈していた。大正11年に三井寺駅が設置されたが、乗降客には軍関係者も多く商店街には軍靴を修理する店も増えていったようだ。戦後は、昭和33年に返還されるまで進駐軍に接収され駐屯地となっていた。近代の日本の変遷を垣間見るようでもある。

三井寺駅ミニ情報

1922年（大正11年）5月7日、浜大津～堂谷（現・石山寺）間を運行していた大津電気軌道が延伸し、その終着駅として開業。1927年（昭和2年）1月に太鼓汽船と合併、琵琶湖鉄道汽船となる。同年9月三井寺～坂本間が開業し現在の石山坂本線の姿となる。その後1929年（昭和4年）4月京阪電気鉄道が琵琶湖鉄道汽船を合併。

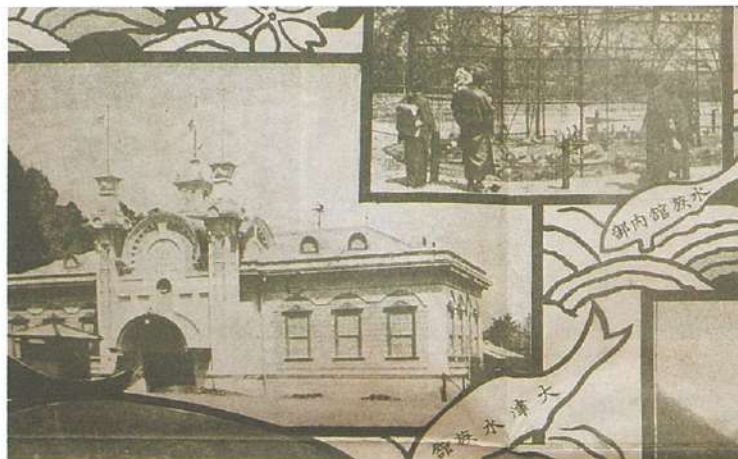
明治23年に完成した琵琶湖疏水は、東京遷都によって一地方都市に転落した京都の復活を託し京都側のプロジェクトとして計画された。放水による湖水の水位低下などの面から難色を示した滋賀県も応じざるを得なかった。大津市歴史博物館の木津勝学芸員によると、大正3年に疏水の太津側トンネルの山手に日本最初の淡水魚の「大津水族館」が開館し、琵琶湖の淡水魚を紹介したがまだ時代は早すぎたようで5年ほどで閉館したという。

今では疏水沿いに咲き誇る桜も、当時の京都府知事北垣国道の発案によるものだが、山手に咲く三井寺の桜と共に花見の名所として親しまれている。120年前の先達らの構想力と日本人の手で初めて開削した隧道工事など、琵琶湖疏水は日本近代土木史の幕開けとなった。今は名刹の風景に溶け込んで一体となっているが、そこには中世から近代までの歴史が幾重にも折り重なっていて、次々と興味が湧いてくる三井寺駅散策の旅であった。

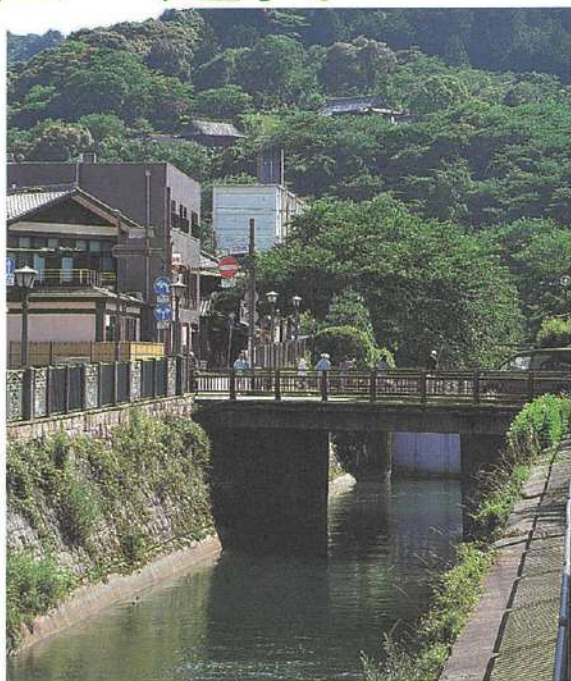
風景に溶け込む中世～近代

途中下車の小さな旅

三井寺駅かわい



大正時代の大津水族館＝当時の観光パンフレットから



疏水より三井寺を望む

石山坂本線



①

- ☆坂本駅
・日吉大社ライトアップ（写真①）
11月中旬～下旬
- ☆近江神宮前駅
・びわ湖大津館クリスマスイルミネーション（同②） 12月初旬～1月中旬
- ☆三井寺駅
・三井寺ライトアップ 4月上～中旬

- ☆浜大津駅
・大津まちなか食と灯りの祭
9月中旬～12月下旬
- ・びわこ花噴水（大津港） 通年
- ・大津マリーナイルミネーション（右ページの同③）
12月中旬～1月上旬



②

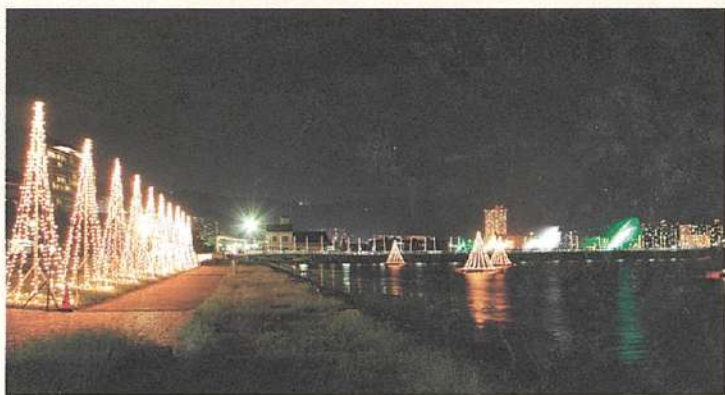
四季折々、灯りイベント 色地の駅名は最寄駅

大津の灯り

びわ湖、すばらしい自然景観、旧の町並み、歴史的建造物、その魅力をさらにアップするため、大津線沿線では四季折々さまざまな灯りイベントが催されている。また、浜大津港界隈では「びわこ花噴水」、動く灯りともいえる船による「ナイトクルーズ」、その昔びわ湖の水運に欠かせなかった「常夜灯」などが、年間を通じて湖岸を照らす。桜や紅葉の季節には、坂本、三井寺、石山寺などで木々や花々が歴史的な建物とともに照らし出される。

山と水に囲まれた清閑なたたずまいのこの大津は、灯りが生む物語を味わいながら静かに散策できる街といえる。

食灯祭期間中のびわ湖岸イルミネーション



街歩き情報

大津まちなか食と灯りの祭2011

9月17日(土)～10月31日(月)オータムシーズン

12月1日(木)～12月25日(日)クリスマスシーズン

大津まちなか食と灯りの祭2011（食灯祭）の開催会場は、JR大津駅から湖岸にかけての大津市中心市街地一帯
問い合わせ：大津市都市再生課（TEL 077-528-2501）

関連イベント

- びわ湖大津秋の音楽祭 9月17日(土)～11月5日(土)
多彩なアーティストのパフォーマンスを集中
幅広いジャンルの公演を開催し芸術に親しむ
- 第3回大津ジャズフェスティバル 10月15日(土) 16日(日)
世界一美しいジャズフェスティバル
～ジャズと一緒に街歩き～



食灯祭期間中に展示される
市民手作りの灯り

全国あかりサミット in 大津 東北のあかりも展示 9月24日(土)

全国各地においても景観、地場産業や地域文化を生かした灯りイベントが開催されている。今年5回目を迎える「食灯祭」。その一環として灯りでまちおこしをしている全国の団体が、大津でサミットを開催する。各地の灯りも湖岸やまちなかで展示。また特別に、東日本大震災からの復興を願い東北地方のあかりも登場する。祭りでは食や音楽の市民参加型イベントも満載。おもてなしの心を感じつつ、人々との交流が楽しめそうだ。

☆京阪山科駅・やまのしな陶灯路（山科駅前） 10月上旬

■京津線

かみさかえまち
上栄町

おおたに
大谷

おいわけ
追分

しのみや
四宮

けいはんやまのしな
京阪山科

みささぎ
御陵

至三條

浜大津から電車道沿いに上がって、右手の菱屋町商店街を歩くと、大きな水色のかわいらしい時計が目に入る。思わず立ち止まると、そこは「まちなか交流館ゆうゆうかん」。

1階はフェアトレードショップ「ねこのひたい」。商品の他、無化学肥料・無農薬の季節の野菜が店内に並んでいる。フェアトレードとは、第三世界の生産者と商品を直接取引し、生産者の生活を支援する運動だ。ゆうゆうかんの運営主体の一つ

「HCCグループ」の甘中（かんなか）裕美子さんは、「どの商品も品質に自信があるものしか販売しません」と胸を張る。彼女は「大津でサステナブル（注：持続可能な）な国際交流を考える会」の代表でもある。この10月14日から16日まで、同会制作「素敵なまちなか映像散策（監督：吉本香織さん）」が同館で上映される。懐かしい・新しい・おもしろいをテーマに、大津市内の沢山のお店の知られざる一面を紹介するスライドショーだ。こ

んなお店が！店主が！こだわりが！という驚きを届けたいという思いが詰まっている。あなたの近所のお店も紹介されるかも。

お腹がすいたので、隣りの「焼きたてパンちいさなパン屋」さんに入ってみることに。「江戸」「ぐるぐる」「安藤なつ」他、面白く珍しい名前のパンがズラリ。パン屋開店のきっかけは、店長の小山清治さんが中心市街地に賑わいを取り戻そうと、大津ジャズフェスティバル開催の協力を呼びかけたことからだった。「よそものが」という街からの懐疑的な反応もあり、地域の一員として認めてもらうため何か商売をしようと思い立った。大津市のチャレンジショップ出店に応募し採用。今年の5月から月の輪のベーカリーショップ「Saas-Fee」で働き、作ったパンを同店へ運んできてご夫婦で販売しているそう。お客さんは来てくれるのだろうか—そんな当初の不安をよそに、「この商店街で行列ができたのを、何十年ぶりに見た！」と近所の人が驚くほどの大盛況。取材が夕方だったにもかかわらず、次々とお客さんが訪れる。「チャレンジショップ期間が終わっても近所でパン屋を続けたい。そうでないと常連さんに悪いので」そう語る小山さんの生き生きとした笑顔は、充実感に満ち溢れたものだった。

取材に応じてくださった皆さんに共通していた思い、それは大津市街地に魅力を感じ、活性化させたいという愛だった。あなたも愛を分けてもらいに「ゆうゆうかん」へ遊びに来ませんか。

京阪沿線でがんばる人たち

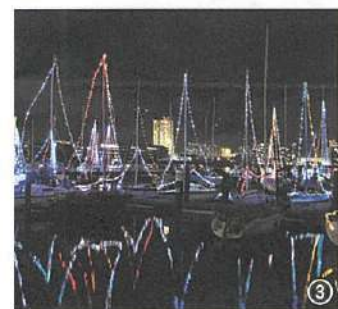


甘中裕美子さん 吉本香織さん

まちなかの
スライド紹介



小山清治さん三千代さん夫妻
パン屋を開いて
地域の仲間に



☆錦駅～膳所本町駅
・ヨシ松明一斉点火（なぎさ公園）
3月中旬びわ湖開き当日
☆京阪石山駅～唐橋前駅
・石山商店街街路灯イルミネーション
7月～8月及び12月～2月

※詳しくは事前に調べておでかけください。

四季折々、灯リイベント 色地の駅名は最寄駅

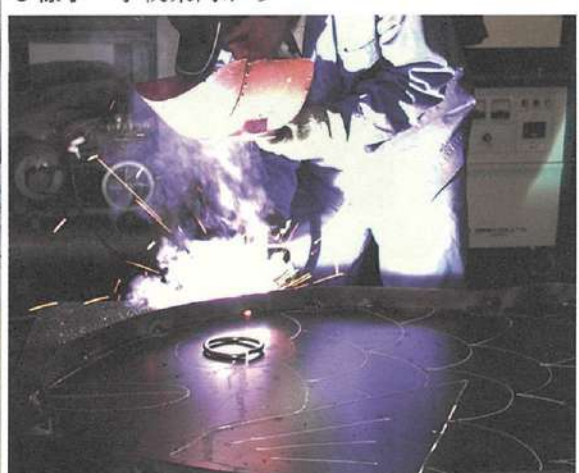
☆唐橋前駅
・瀬田の唐橋ライトアップ（同④）
8月初旬～中旬
☆石山寺駅
・石山寺秋月祭
中秋の名月の時期3日間
・石山寺もみじライトアップ（同⑥）
11月中旬～下旬



費競技会を目前に控え、競技車を囲む「車部」のクルーたち



ものづくりを学ぶ瀬田工生ならではの。三杉祭（文化祭）の作品、ジャンボたい焼きの型を製作する様子＝学校案内から



滋賀県立瀬田工業高校

「質実剛健」に、ものづくり

人生に真面目に向き合う生徒たち

沿線の

学校へ
行こう

唐橋前駅で電車を降り、「急がば回れ」のことわざの由来となった瀬田の唐橋を渡って、昔の趣を残す商店街を抜けた所に「滋賀県立瀬田工業高等学校」がある。通称「瀬田工」。一昨年創立70周年を迎えた。機械科、電気科、情報電子科と化学工業科からなる。

「瀬田工」の生徒たちは一般教科とともに、それぞれの科での専門教科を履修する。それによって資格が与えられたり、国家試験を受けるための要件を得られたりす

る。また集中講座を受けて、科を越えて資格取得に励むという校風もある。資格を生かしての就職活動はやはり有利で、就職希望者における就職率は100%だそう。

「資格が取りやすく、就職率が高いからこの学校を選びました」と、機械科所属の男子生徒。情報電子科で学び、生徒会役員をしている女子生徒は、「受験の時、普通科を考えたこともあったけど、人とちょっと違うことをしたくて、ここを選びました。就職にも強いし」と話してくれた。

ところで、同校の生徒会役員には女子の姿が目立つ。全校での割合はたった4%程度なのに、なぜ？前述の女子生徒の回答は明快！「少ないからって遠慮せず、女子の声を反映させたくて。女子が生徒会役員をしていると、その他の女子も意見を言いやすくなるでしょう」。元気・やる気がモットーという生徒たちの中でも、なんて「男前」な発言。頼もしさの中に、大きな優しさを感じた。

また、「瀬田工」生徒は部活動においても活発に頑張っている。有名なのは数々の国体選手やオリンピック選手を輩出しているボート部。そして、忘れてはならないのが「車部（しゃぶ）」、自動車部だ。学校創立からまもなく設立された工業高校ならではのクラブである。鈴鹿サーキットなどで行われる省燃費競技会に出場するため、エコカーの製作に汗を流している。大会ごとに他チームのマシンを横目で見て研究しているとか。

今回の取材では、人生に真面目に向き合う生徒たちの姿に、校訓の「質実剛健」をしっかり感じとることができた。

普段の通勤・通学やお出かけにたくさんの人が利用する駅。同じように見える駅のホームも、生い立ちによってその高さに少し違いがあるのをご存知だろうか。今回はホームの高さについてご紹介する。

京阪電車知って得する! まめ知識

ホームが語る路線の歴史

石坂線と京津線の電車が乗り入れする浜大津駅。石坂線の電車を乗り降りする際、ちょっとホームが低いと気付いたことはないかな。京津線の電車を利用するときはそんなことは無いはず。その訳は、石坂線を走っている電車の床が、京津線の電車の床に比べて高いからだ。京津線車両の床に合わせてある浜大津駅ホームの高さは、浜大津駅以外の石坂線の駅と違って少し低い。その違いには、京津線や石坂線の開業の頃まで遡ることのできる歴史が秘められている。

京津線は、平成9年に地下鉄東西線が開通するまで、地上で京都三条と浜大津を結んでいた。途中の東山三条・蹴上・日ノ岡といった駅の道路上にあるホームは、路面からわずか30cm程かさ上げした低いものであった。これらの駅で苦勞なく乗り降りできるよう、電車の床は低く作られており、なおかつドア下部から乗降時に補助のステップが出る工夫がされていた。この電車の床の高さに合わせて、当時京津線の三条や九条山、御陵から浜大津までの駅ホームが作られていた。後に御陵から京都方面の線路が京都市営地下鉄となり、京津線車両が乗り入れたときも、京阪山科から浜大津駅までのホームは4両編成用に長さが伸びたものの、ホームの高さは引き継がれた。

一方石坂線とはいうと、今では2両編成の電車が石山寺と坂本を結ぶ路線となっているが、開業時期は石山寺～三井寺間、三井寺～坂本間と異なり、違う2つの会社がそれぞれ開業させた。当時、石山寺～三井寺間を走る電車は1両で、ホームも京津線の路面区間にあったような低いホームであった。三井寺～坂本間は、開業時より今と概ね同じ形の電車が1両で走っており、その頃から現在と同じ高いホームが使用されていた。

さて、石坂線が全線つながった当初は三井寺駅で電車の乗り換えが必要だったそうだ。ただそれでは不便なので、坂本～石山寺間で電車を直通運転させるため、石坂線の駅は両方の電車が止まれるよう、高いホームと低いホームが作られた。その名残を今でも、石坂線のいくつかの駅で見ることができる。比較的良く分かるのが三井寺駅と島ノ関駅だ。他の駅でも良く見ると低いホームと思われる跡が残っているところがいくつかある。

電車を利用する人が便利で安全のように、時代によって駅が移設されたりホームが姿を変えたりしている。電車に乗る時、ちょっと足元をみてください。駅が積み重ねてきた歴史を感じられるかもしれない。



浜大津駅での石坂線用電車の様子。
ホームと電車のドアに段差がある



石坂線のほかの駅での電車の様子。
ホームと電車のドアに段差はない



三井寺駅に残る低いホームの名残



日ノ岡駅在りし日の姿。道路から一段高いところが駅のホームだった

大津の京阪電車を愛する会の楽しいイベント

沿線プチ旅行

今年は「近江神宮de百人一首かるた大会」!
10月29日(土)(雨天の場合は翌日)、貸切り電車で滋賀駅へ。いにしえに大津と京都を往来した人々を見守ってきた、旧道沿いの「志賀の大仏」などを見学の後、各種の競技かるた大会が催されている近江神宮に。「かるたの殿堂」で名人を目指そう。応募締め切りは、10月5日(木)。



前回の沿線プチ旅行「延暦寺座禅体験」の様子

車内アナウンス体験

今年は11月13、20日(日)に講座開催
プロのアナウンサーによるアナウンス講座受講後、自ら考えた沿線紹介の原稿の録音を行います。参加した方の声を実際の車内で流れ、昨年も冬休み期間中、乗客の皆さまにその声を楽しんでいただきました。10月中旬募集予定。



参加ご希望やお問い合わせは、下記の「大津の京阪電車を愛する会」へ。
当日の入会もOKです。

電車de落語 & ビア

愛する会ならではの恒例行事。ボランティアスタッフが皆さまをお迎えします。車内に本格的な高座を設け、缶ビールを片手にいつもと違う雰囲気でも落語や噺家さんとのトークを満喫。石山寺と坂本の間を笑いが溢れ、心も揺れる電車が走り来します。平成24年3月実施予定。



大津の京阪電車を愛する会 会員募集中!

「大津の京阪電車を愛する会」は貴重な公共交通機関である京阪大津線の利用促進を図ることを目的として、平成17年11月に設立された市民団体です。電車内や京阪沿線で行う各種イベントを通して京阪電車にふれあう機会をつくり、利用促進を図る活動を行っています。皆さんも本会と一緒に京阪電車大津線を支えていきませんか?

入会方法

- 入会は1口2,000円からです。
- ご住所、ご連絡先を電話(077-528-2736)、FAX(077-521-0427)にてお伝えいただければ、申込用紙兼振込用紙を送付させていただきます。
- 申込用紙兼振込用紙に必要事項をご記入の上、最寄りの郵便局で会費をお振込ください。後日会員証、乗車券等をお送りいたします。

会員特典

- ☆1口(2,000円)につきA、Bいずれかの乗車券がついてきます。
 - A. 一日乗車券(500円相当×2枚)
 - B. 普通乗車券綴り(160円区間×6枚)
- ☆市内約40施設で割引等の特典が受けられる会員証1枚。
- ☆本会主催のイベント案内のほか会報を定期的にお送りします。



申込用紙は京阪大津線各駅に設置しています。
郵便番号・住所・氏名・連絡先を記入してください。
郵便局で振込んでください。

大津の京阪電車を愛する会

<http://www10.ocn.ne.jp/~ok-love>

〒520-0047 滋賀県大津市浜大津4丁目1-1
「明日都浜大津」1階 市民活動センター内
TEL/FAX: 077-523-6238
(事務局は、土曜日の午後1時～4時に開いています)

〒520-8575 滋賀県大津市御陵町3-1
大津市建設部 交通・建設監理課
TEL: 077-528-2736 FAX: 077-521-0427